

# 博物館 アラカルト ①

## ●資料紹介

黒船来航時の非常事態マニュアル

### 御出陣御行列役割写帳ごしゅつじんごぎょうれつやくわりうつしちよう こうようせきようぶんこ (黄葉夕陽文庫)

当館所蔵・黄葉夕陽文庫は、福山藩儒者・菅茶山かんちやざん(1748～1827)が神辺れんじゆくに開いた私塾・廉塾に伝わった資料群です。今回紹介する「御出陣御行列役割写帳」は、茶山の甥の子で茶山の後継者となった福山藩儒者・菅自牧齋かんじほくさい(1810～1860)が筆写したものとされます。

この資料は、アメリカペリー艦隊が神奈川沖に再来航した嘉永7年(1854)に、福山藩主・阿部正弘が諸藩による警備状況の視察及び戦争勃発時の出陣を想定して、あらかじめ決めておいた行列の編成と各藩士の役割の写しです。

**行列は次の4群からなります。**

#### ①第1群

阿部正弘と近臣からなり、視察を想定した編成です。軍者・儒者・医師や藩主の諸道具を持つ従者も含まれます。儒者には、正弘の信任が厚くペリー艦隊視察にも行った石川和介(関藤藤陰)の名前も見えます。

#### ②第2群

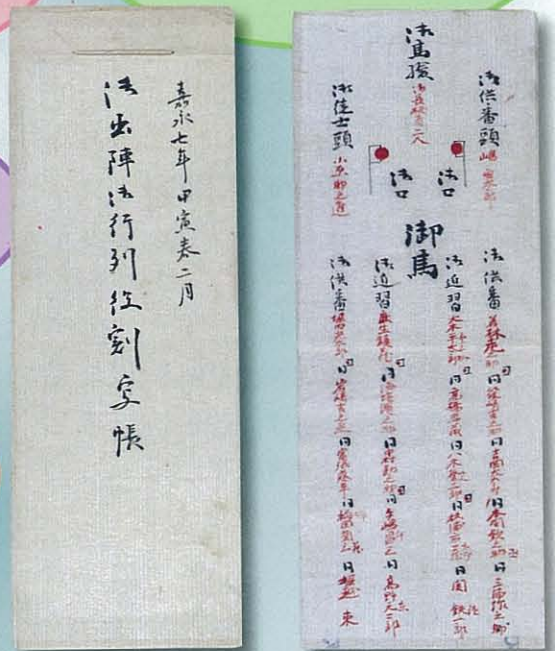
第1群を支援する役割で、普請奉行や勘定組頭、料理頭などからなります。

#### ③第3群

江戸詰家老・内藤角右衛門が率いる鉄砲隊・槍隊・大筒隊です。戦時に加わる部隊です。

#### ④第4群

侍大将・中山左衛門が率いる鉄砲隊・槍隊です。戦時の増援部隊と思われます。行列の役割名の下に個人名が朱書きされており、いつでも出陣できる体制であったことがわかります。



御出陣御行列役割写帳

末尾には、嘉永7年2月23日付けの13条からなる注意書きが記されています。その内容は、藩主の登城・視察・戦時それぞれの場合の服装・武装の指示、集会所、行動の際の注意点からなります。

当時、福山藩主・阿部正弘は老中首座でした。ペリー艦隊は前年に初来航して幕府に対して開国を要求する大統領国書を手渡し、その回答を得るためこの年の1月16日に再来航しました。これ以後、3月3日に日米和親条約が締結されるまで、幕府は避戦の方

針を立てていましたが、情勢次第で戦争勃発の可能性がありうるという緊迫感に包まれていました。このような情勢の中で、阿部正弘は福山藩江戸藩邸にさまざまなケースを想定した出陣計画を準備させたと考えられ、この資料は、「黒船来航時の非常事態マニュアル」といえます。

この資料は、春の企画展「阿部正弘と日米和親条約」に展示されています。

(主任学芸員 西村直城)